大分合同新聞

ハラールしょうゆ

ワークシート　　年　　組　　名前

① フンドーキン醤油にとって、具体的に留学生のどんな意見が役に立ちましたか。記事中の言葉を使って書きましょう。

甘味などの現地の嗜好が参考になった

② ハラールしょうゆの海外輸出は、早ければいつから始まりますか。記事を読んで答えましょう。

年内

③ この協定を通じて、APU が狙っていることは何でしょう。記事中の言葉を使って書きましょう。

学生の教育にとどまらず、社会にインパクトを与えること。

（2017 年 5 月 16 日付朝刊 1 面）

相互連携協定を結んだ（左から）小手川強二フンドーキン醤油社長、是永駿ＡＰＵ学長、高槻亮輔インスパイア社長＝15日、別府市のＡＰＵ

ＡＰＵ、フンドーキンなどが協定

ハラールしょうゆ開発へ

イスラム教徒に配慮

年内輸出を目指す

立命館アジア太平洋大学（ＡＰＵ、別府市）とフンドーキン醤油（臼杵市）、事業開発支援のインスパイア（東京都）は15日、アルコールなどを禁止するイスラム教の戒律に沿った「ハラールしょうゆ」の共同開発に取り組む協定を結んだ。東南アジアからの留学生らの知見を商品開発などに生かし、年内にも商品を完成させる計画。イスラム教徒（ムスリム）が多く、経済発展が見込まれる東南アジア諸国連合（ＡＳＥＡＮ）地域への輸出を目指す。

調印式がＡＰＵであり、是永駿学長、小手川強二フンドーキン醤油社長、高槻亮輔インスパイア社長が相互連携協定を結んだ。

ＡＰＵは２０１５年４月、16億人を超え世界人口の約4分の1を占めるムスリムの文化などを研究する機関を設置。インスパイアとＡＰＵが連携して16年７月、同社が独自に開発を進めていたハラールしょうゆの味を留学生が試す催しが実現した。

「甘味などの現地の嗜好について大変参考になった」（フンドーキン商品開発部）と、本格的な共同開発に発展。同社が毎月開く新商品の開発会議に今年２月から、フィリピン、ベトナム、インドネシア、シンガポールなどの教員と学生計６人が参加し、味やデザインについて意見を述べている。

フンドーキンは７月に「日本ハラール協会」の認証取得を正式に申請し、年内にもマレーシアを第１候補に輸出を始める方針。今秋からの業務用の国内出荷開始も考えている。ドレッシングなど他の調味料についても相互連携を検討する。

小手川社長は「ＡＰＵが県内にあるおかげで、短期間に何度も商品開発ができる。海外進出のハードルが下がった」と語った。

ＡＰＵは今回の商品開発を第１弾に、多様な文化背景がある強みを生かした「文化系型産学連携」を広げる方針。是永学長は「学生の教育にとどまらず、社会にどれだけインパクトをもたらせるかの実践」と話した。

（渡辺大祐）